

在宅看護論授業全体計画

統合分野	開講年次	単位	時間	担当者	
在宅看護論	2・3年次	6	195	専任教員	
科目構成	在宅看護概論、在宅ケアシステム論、在宅看護援助論、在宅看護技術論、在宅看護論実習				
授業目的 授業目標	1. 在宅看護論は、地域で生活しながら療養する人々（疾病や障害を持つ本人）とその家族に対する理解を深め、在宅ケアニーズとその背景、在宅看護の必要性や目的・機能・特徴などの基礎的知識について学ぶ。 2. 保健・医療・福祉政策の中での在宅看護活動の内容、チームケアの重要性や看護師のケアマネジメントを理解し、多職種と協働する中での看護の役割について学ぶ。 3. 在宅看護を効果的に進めるためのアセスメントや看護診断など、在宅看護における生活の質の維持・向上を目指した看護過程の特徴や基本について学ぶ。 4. 在宅看護技術として生活支援の方法や医療処置技術について理解し、更に在宅での終末期患者と家族への看取りを含む支援の方法について学ぶ。 5. 臨地実習では、訪問看護ステーション、老人保健・福祉施設、市町村地域包括支援センターなどで実践体験を通して、在宅看護の対象者の生活、アセスメント、看護実践、連携・調整等の援助方法を学ぶ。				
授業科目	在宅看護概論	在宅ケアシステム論	在宅看護援助論	在宅看護技術論	在宅看護論実習
単位・時間	1単位 30時間	1単位 15時間	1単位 30時間	1単位 30時間	2単位 90時間
開講時期	2年次前期	2年次前期	2年次後期	2年次後期	3年次
学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護とは ・在宅看護の対象者の特徴 ・在宅看護の対象者である家族の特徴 ・在宅療養の利点と限界 ・在宅看護の目的 ・在宅看護における看護師の役割と機能 ・退院支援と退院調整 ・在宅看護における倫理的課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームケアの重要性 ・ケアマネジメントと看護の役割 ・チームアプローチの意義と方法 ・ケアマネジメントに必要とされる能力 ・公的介護保険 ・在宅ケアに関する法律 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護の展開過程 ・事例による看護過程の展開（演習） 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護の基本技術 ・在宅医療と社会制度 ・薬物療法と服薬管理 ・感染予防 ・認知障害をもつ人への援助 ・在宅看護の援助技術（食事・排泄・清潔・移動・ADLの拡大） ・医療依存度の高い人への看護（在宅酸素・呼吸器・経管栄養等） ・在宅ターミナル期の療養者（疼痛コントロール含む） ・障害者、難病療養者、子どもの在宅療養を支える看護 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション ・介護保険施設 ・市町村地域包括支援センター
テキスト 教材・副読本	系統看護学講座 在宅看護論 医学書院				
関連科目	健康支援と公衆衛生、社会福祉論、障害の考え方とリハビリテーション、法と看護、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践				
評価方法	筆記試験	筆記試験	筆記試験 3割 演習 7割	筆記試験	実習評価表による評価（実習内容・実習記録・出席）